

軟白長ねぎ

担当者 技能研究員 藤井 翔馬

試験課題名	品種栽培展示圃
目的	本町に適した多収・高品質・良食味の品種を選定し、生産者への普及に資する
期待される成果	地域適合複合栽培による高品質生産並びに労働生産性の向上を図る
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所、 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会長ねぎ部会

1 供試品種・資材

品種

※元 蔵 (武蔵野) 白羽一本太 (トーホク)
雷帝下仁田 (サカタ) 龍 翔 葱 (横浜)

※基準品種

2 耕種概要

土 質 ~ 灰色台地土 (埴壤土) 三笠圃場

前 作 ~ トマト

播 種 日 ~ 3月24日 定 植 日 ~ 5月30日 収 穫 日 ~ 10月13日

栽 植 密 度 ~ 畦幅80cm×株間5cm 25000本/10a当たり

面 積 ・ 区 ~ 1区1.2m×0.8m=0.96m² 20株/1区当たり 反復あり

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.4	0.057	53.6	32.3	21.2	381.1	5.3

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

堆 肥 ~ 1,500kg

(3) 施肥内容 (成分量/%)

基 肥 ~ 硫酸アンモニア	(21 - 0 - 0)	5月27日	全層施肥
基 肥 ~ 粒状過磷酸石灰	(0 - 18 - 0)	5月27日	全層施肥
基 肥 ~ 硫酸カリ	(0 - 0 - 50)	5月27日	全層施肥
分 肥 ~ 硫酸アンモニア	(21 - 0 - 0)	8月 1日	側条施肥
分 肥 ~ 粒状過磷酸石灰	(0 - 18 - 0)	8月 1日	側条施肥
分 肥 ~ 硫酸アンモニア	(21 - 0 - 0)	8月24日	側条施肥
分 肥 ~ 粒状過磷酸石灰	(0 - 18 - 0)	8月24日	側条施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

			N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア	28kg	6		
基 肥	粒状過磷酸石灰	26kg		5	
基 肥	硫酸カリ	8kg			4
分 肥	硫酸アンモニア	1.6kg	2		
分 肥	硫酸カリ	0.7kg			2
分 肥	硫酸アンモニア	1.6kg	2		
分 肥	硫酸カリ	0.7kg			2
合 計			10	5	8

4 調査項目

生育調査 ~ 播種日・発芽日・発芽率・生育日数

収量調査 ~ 全長・生葉数・軟白・規格内割合・規格内収量・調整率・平均一本重

5 生育調査

項目	品種	元蔵	白羽一本太	雷帝下仁田	龍翔葱
播 種 日		3月24日			
発 芽 期		4月2日	4月1日	4月1日	4月1日
発 芽 率 (%)		87%	76%	88%	89%
生 育 日 数		203日			
定 植 時 全 長 (cm)		34.9	36.5	35.9	37.4
定 植 時 生 葉 数 (枚)		3.5	3.3	3.1	3.6
収 穫 時 全 長 (cm)		92.0	96.8	73.0	93.6
収 穫 時 生 葉 数 (枚)		7.1	7.8	5.2	7.6

6 収量調査

項目	品種	元蔵	白羽一本太	雷帝下仁田	龍翔葱
規 格 内 収 量 (kg/a)		665	680	588	698
調 整 率 (%)		79%	79%	76%	79%
平 均 一 本 重 (g)		266	272	235	279
軟 白 長 (cm)		27	25.4	20.8	25.6
規格内 割合 (%)	3L (4~5本/kg当たり)	90	90	80	100
	2L (6~8本/kg当たり)	10	10	20	0
	L (9~11本/kg当たり)	-	-	-	-

7 病虫害防除履歴

殺 虫 剤	殺 菌 剤
散布なし	散布なし

8 試験結果概要

(1) 生育経過

播種は3月24日に全品種ハウス内にて直播した。発芽期を9~10日後に迎え、全ての品種が生え揃った。発芽率は88%ほどのものが多かったが、白羽一本太は76%と、やや低かった。

定植は5月30日に行った。定植時は土塊が多く、晴天がしばらく続き根の活着を心配したが、その後は生育が進み、10月16日に収穫した。生育日数は203日であった。

(2) 収量調査結果

収穫時の全長は基準の元蔵が92cmであった。その他の品種も概ね90cm台であったが、雷帝下仁田はやや短く、73cmであった。

規格内収量は基準の元蔵が6650kgであった。雷帝下仁田は5880kgとやや少なかった。

軟白長は元蔵が27cm、白羽一本太と龍翔葱は25cmほどであった。雷帝下仁田は20.8cmと短かった。

(3) 考察

今年度は天候不順から定植の時期が大きく遅れてしまい、土塊も多かったことから生育状況が懸念されたが、根の活着後は生育が進んだ。

反省点としては培土の時期が遅れ、軟白部位が短く、横に太いネギが多くなってしまったことが挙げられる。次年度への課題として、培土の時期を見定めることや、適切な防除を行うことでより品質の高いネギを収穫することを目標としたい。